SHOWA fine various reagents

化学物質等安全データシート

1.化学物質及び会社情報

昭　和　化　学　株　式　会　社
東京都中央区日本橋本町４－３－８
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡　　同　上
改訂　平成20年9月9日

化学物質等のコード　：　2051-0122

化学物質等の名称　　：　トリフェニルアミン

2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

健康に対する有害性
　急性毒性（経口）　　：　区分5

絵表示又はシンボル：　該当なし

注意喚起語：　警告

危険有害性情報
　飲み込むと有害のおそれ

注意書き
　【安全対策】
　すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
　使用前に取扱説明書を入手すること。
　この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
　呼吸用保護具、保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
　粉じん、フュームの吸入を避けること。
　屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
　取扱い後はよく手を洗うこと。
　【救急処置】
　飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
　吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
　眼に入った場合、水で15分以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には
　外して洗うこと。
　皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
　眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
　気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
　皮膚刺激又は発疹がおきた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
　【保管】
　直射日光を避け、容器を密閉して涼しく換気のよい場所に施錠して保管すること。
　【廃棄】
　内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、
　　現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

3.組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	：	単一製品
化学名	：	トリフェニルアミン （別名）N,N-ジフェニルアニリン （英名）Triphenylamine、N,N-Diphenylaniline
成分及び含有量	：	トリフェニルアミン、　98.0%以上
化学式または示性式	：	C18H15N、　(C6H5)3N
分子量	：	245.32
官報公示整理番号(化審法)	：	未設定　　安衛法：4-(12)-582
CAS No.	：	603-34-9
危険有害成分	：	トリフェニルアミン

４．応急措置

吸入した場合　：被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合　：皮膚を速やかに洗浄すること。
皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。
皮膚刺激が続く場合、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

目に入った場合　：水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合　：口をすすぐこと。水を飲ませ吐かせること。
意識がない時は、無理に吐かせないこと。
医師の診断、手当てを受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状：眼・皮膚の刺激

５．火災時の措置

消火剤　：本品は可燃性である。
粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤、散水

特有の危険有害性　：火災によって刺激性、毒性のガスを発生するおそれがある。
熱で容器が爆発するおそれがある。

特有の消火方法　：危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火を行う者の保護　：消火作業の際は、適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
作業者は保護具（「８．ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や粉じん、ガスの吸入を避ける。
防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
風上に留まる。
低地から離れる。

環境に対する注意事項　：河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
環境中に放出してはならない。

回収、中和　：漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。回収物は後で廃棄処分する。
漏洩物を集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。
後処理として、漏洩場所は、多量の水で洗い流す。

封じ込め及び浄化の方法・機材：危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策　：すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：『８．ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気：『８．ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行なう。

安全取扱い注意事項：この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
眼に入れないこと。
皮膚と接触しないこと。
粉じんを吸入しないこと。
フュームを吸入しないこと。
スプレーを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

接触回避：『１０．安定性及び反応性』を参照。

保管

技術的対策：保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

保管条件：熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。
容器を密閉して冷暗所に保管すること。
直射日光を避け、換気の良い場所で施錠して保管すること。
酸化剤と離して保管すること。

混触危険物質：『１０．安定性及び反応性』を参照。

容器包装材料：　　ガラス、ポリプロピレン、ポリエチレンなど

８．ばく露防止及び保護措置

管理濃度：　　設定されていない。
許容濃度（ばく露限界値、
生物学的ばく露指標）：
日本産衛学会（2007年版）　設定されていない。
ACGIH（2007年版）　　TLV-TWA　　5mg/m3
設備対策：　　この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。
高熱取扱いで、工程で粉じん、ヒューム、ミストが発生するときは、換気装置を設置する。
保護具
呼吸器の保護具：　　防じんマスク、簡易防じんマスク
手の保護具：　　保護手袋を着用すること。
眼の保護具：　　眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具：　長袖作業衣を着用すること。
必要に応じて顔面用の保護具を着用すること。
衛生対策：　　この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

９．物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	白色～微褐色の結晶又は結晶性粉末
臭い	無臭
pH	データなし
融点・凝固点	126～129℃（融点）
沸点、初留点及び沸騰範囲	365 ℃
引火点	180℃ (開放式)
爆発範囲	データなし
蒸気圧	29.3hPa(20℃) 、3.8kPa(25℃)
蒸気密度（空気 = 1）	データなし
比重（密度）	0.774 g/mL（20℃）
溶解度	水にほとんど溶けない。 アセトン、ベンゼンに可溶。 冷エタノールに微溶。
オクタノール/水分配係数	log Pow = 5.74 (測定値)
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
臭いのしきい（閾）値	データなし
蒸発速度（酢酸ブチル = 1）	データなし
燃焼性（固体、ガス）	非該当
粘度	データなし

１０．安定性及び反応性

安定性	通常の取扱で安定である。
危険有害反応可能性	酸化剤との混触で反応することがある。 強酸と混触すると激しく反応する。
避けるべき条件	熱、日光、火源、裸火、スパーク
混触危険物質	酸化剤、強酸
危険有害な分解生成物	加熱すると分解し、有毒な一酸化炭素、窒素酸化物のガスを発生する。

１１．有害性情報

急性毒性	経口　ラットLD50＝3200から6400mg/kg(ACGIH 7th, 2001、PATTY 4th, 1994)に基づき、最小値を採用し、区分５とした。 飲み込むと有害のおそれ（経口）（区分5） 経皮　データがないので分類できない。 吸入（粉じん）　情報なし
皮膚腐食性・刺激性	ACGIH (7th, 2001) のモルモットの皮膚に適用した試験において浮腫を伴わない軽度な限局性紅斑のみが認められたが、発現頻度が不明で、データ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	ACGIH (7th, 2001) のウサギの眼に適用した試験において損傷は認められなかったとの記述から、眼刺激性はないと判断し、区分外とした。
呼吸器感作性	データがないので分類できない。
皮膚感作性	ACGIH (7th, 2001) のモルモットを用いた試験で皮膚感作性は認められなかったとの記述から、区分外の可能性があるが、技術上の指針に示された動物試験であるか否か明確でなく、明確に感作性を否定することはできないことから、分類できないとした。
生殖細胞変異原性	in vitro試験のデータしかないため分類できない。
発がん性	IARC、ACGIH、NTP、EPAに記載なし。

生殖毒性　　：情報なし
特定標的臓器・全身毒性
（単回ばく露）：情報なし
特定標的臓器・全身毒性
（反復ばく露）：ACGIH（7th, 2001）にヒト職業暴露で有害作用は認められていないとの記述はあるが、暴露レベルが不明であり、データ不足のため分類できない。
吸引性呼吸器有害性：情報なし

１２．環境影響情報

水生環境急性有害性：データ不足のため分類できない。
水生環境慢性有害性：データ不足のため分類できない。

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物　：廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
(参考) 燃焼法
可燃性溶剤の溶かすか、又は木粉、おが屑等に混合して、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。
汚染容器及び包装　：容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

１４．輸送上の注意

国連番号　：非該当
品　　名　：該当なし
国連分類　：非該当
海洋汚染物質　：非該当
特別の安全対策　：輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。

１５．適用法令

労働安全衛生法　：名称等を通知すべき有害物
（法第５７条の２、施行令第１８条の２別表第９）
（政令番号　第400号「トリフェニルアミン」）
化学物質排出把握管理促進法
（ＰＲＴＲ法）　：非該当
毒物及び劇物取締法　：非該当
消防法　：非該当
船舶安全法　：非該当
航空法　：非該当
海洋汚染防止法　：非該当

16.その他の情報

参考文献

化学物質管理促進法PRTR･MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険･有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修 中央労働災害防止協会編

Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH　CD-ROM
GHS分類結果データベース　nite（独立行政法人　製品評価技術基盤機構）　HP
GHSモデルMSDS情報　中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター　HP

このデータは作成の時点においての知見によるものですがかならずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。